

# (翻訳) アーカイブズとレコードキーピング

## オーストラリアの視点

Findlay, Cassie. “Archives and Recordkeeping: An Australian Perspective”

中村 百合子 (立教大学教授)

古賀 崇 (天理大学教授)

ハモンド エレン (立教大学特任教授)

### はじめに

今日、私は、レコードキーピングとアーカイブズ一般について 2、3 のこととお話し、アーキビストを含めてレコードキーピングにかかわるどんな専門職にとっても最も重要なテクニックのいくつかについてお話しします。

百合子が、あなたたちの多くが図書館学を学んでいると教えてくれたので、まずはオーストラリアの伝統でアーキビストは何の仕事をする事となっているのかについて、短くお話しします。みなさんがすでに知っていることを説明するのではありませんが！その後、ライブラリアンとアーキビストの仕事の比較をいくらかいたします。

空港の入国審査要旨の職業欄には、私はいつも「アーキビスト」と書いてきましたが、キャリアにおいて、私は企業で、政府で、コンサルタントとして、伝統的なアーカイブズのマネジメント、方針決定、デジタル保存、ごく最近では、サンフランシスコに本社のあるグローバルなファッション小売業で情報ガバナンス [組織の情報に関わる方針の確立・推進の体制を統括するような仕事] をすることが求められる役割をして、働いてきました。

これは、アーキビストとレコード・マネージャーの仕事は本質的に同じものとみなされているオーストラリアの記録やアーカイブズの業界の人たちにとって珍しいことではありません。私たちが活動する環境だけが違うのです。

私たちの仕事は、記録のためのシステムを構築し、管理することで、長い期間、記録が信頼でき、利用可能であるようにしておくことです。

私と私の仕事についても短くお伝えしておきます。現時点で、私は Gap というグローバルなファッション小売業で働いています。Gap は、Banana Republic、Gap、Old Navy というようなたくさんのブランドを抱えています。日本を含めて、世界中に店舗があり、そして巨大なオンラインのビジネスをしています。

過去、私は政府や小さな民間の会社で働いてきましたが、これは、私が今まで働いた中で一番大きな企業です。サンフランシスコの本社で働いています。ダイナミックで複雑、そして常に変化している会社です。私はこの会社のアーキビストとして働いてきて、今はプライバシーに関するチームにいます。そのチームは、顧客データが適切に収集され利用され共有されることを確実にするべく支援しています。[アーキビストとプライバシーチームのメンバーという] その両方の役割において、レコードキーピングの核にあるスキルがいかに重要かについて、またアーカイブでは宣伝の資料、物品、画像のような「楽しい」モノを扱うけれど、その両方の役割とは基本的にはその会社がしていることについていかに証拠を作って保管するかについてであるということ、今日のお話の中でみなさんにお示しできればと思います。

## アーキビストとライブラリアン：協働もしくは集約？

レコードキーピングの話に深く入り過ぎてしまう前に、アーキビストとライブラリアンの専門職のアイデンティティの問題にちょっと短く触れたいと思います。図書館とアーカイブズの共通点は何でしょうか？アーカイブズと図書館は共に、

- ・ 情報源を管理し、アクセス可能にする。
- ・ 事実を記録した遺産を守り、保管することを助ける。
- ・ 増大するサービスへのオンラインのアクセスを提供する。

しかし、ここまでの私の話からわかるように、ライブラリアンとして、またアーキビストとして私たちがする仕事には重要な相違点があります。それらは、予算が縮小し、図書館とアーカイブズのサービスを統合したり合理化したりする決定が下されるときにも、忘れられるべきではありません。以下の表は、オーストラリア・アーキビスト協会が編集したもので、私たちがすることについての重要な相違をまとめた有用なものだと思います。

### アーカイブズと図書館の違いの要約

アーカイブズ	図書館
記録の特定、保護、アクセスの提供を専門とする	出版された情報の受入と管理を専門とする
記録を集合として扱い、しばしばそれは大きな規模で、その作成の背景に基づいて扱う	たいてい、もっとばらばらの、個別レベルで、資料や定期刊行物などを管理する
長期間にわたって、記録に対するアクセスの、多様な変化する必要条件を管理する。それには法律、政府または企業の方針、著作権などが含まれる	所蔵資料の大部分にオープン・アクセスを提供する一方で、たいていは著作権法に基づいてアクセス制限をかける
適切に記録へのアクセスを提供するとともに、ふさわしい証拠を保管することを通して説明責任を支える	主な関心は情報への簡単で平等なアクセスを提供すること
記録の出所についての文脈情報を付与して管理し、また長期にわたってその情報の変化を監視する専門家である	主題に基づく分類を適用する図書館の目録システムの専門家である
法律、社会的な期待、その他の必要条件を考慮しながら、記録の破棄についての決定をして実行する	図書館の方針や利害関係者の関与によって、資料を取り除く

もちろん、こうした違いにも関わらず、私たちは情報マネジメントの専門家として、分野横断的なチームで協働して働くことができます。その例は実に沢山あります。特にデジタル保存の世界では。しかし、私たちはそれぞれに異なるアプローチを取っている理由と、私たちが働くことの結果がもたらすものを覚えていなければなりません。私たちは別個の専門職のアイデンティティをもっていますし、それぞれに別の知識やスキルのまとまりがあります。

両方の専門職は、デジタル革命とともに、過去の 20、30 年で多くの変化を経験してきました。私やオーストラリアの仲間たちにとっては、この新しい世界の変化の挑戦に向き合うのに紙からデジタルに移行するという考え方が絶対的に不可欠でした。しかし、完全にデジタルの環境で働いていようとも、デジタルと紙が混ざった環境で働いていようとも、すべ

てのレコードキーピングの専門職にとって同じであり続けている私たちの専門職の知識の中には今も核となる理解があります。それらを説明したいと思います。

## 記録について

それでは、私は記録と言って何を意味しているのでしょうか？私たちは、これをあらゆる情報、今日はデータのまとまりと定義しています。それは業務のやりとりの証拠です。ですから、記録は形式によって定義されるのではなく、目的によって定義されます。それが紙、デジタル、もしくは古代の粘土板であろうとも！

ある特定の文脈である時に起きたことを私たちに示すものは何であれ、記録となり得ます。同僚があなたの机の上に残したメモであれ、フェイスブックのあなたの近況の書き込みを示すひとまとまりのデータであれ。これらはすべて記録です。ただ、あるものは他のものよりも、注意深く、よりルールをもって管理されているというだけです。アーカイブズにおける記録とは、簡単に言えば、あるグループ、組織、もしくは社会全体が、特別な規則を適用した記録のことです。なぜそのような規則を適用するかというと、それらがさまざまに異なる理由でそのグループが重要だと思ふ業務もしくはできごとの証拠であるからです。その理由はグループによるし、彼らにとって何が大切かによります。

もちろん、かつて記録はすべて紙その他のアナログの形式で作られて保管されていました。今日、それらは大量に、デジタル形式で生み出されています。1世紀前から残る手紙がいかにもめずらしく貴重なものであるかについて、また1日にフェイスブックのサーバーをいくつのメールが通過するかについて、考えてみてください。すごく異なる世界ですね！

今日の記録はデータから作られています。そのデータが、あるできごとをその文脈とともに表します。あるできごとは、例えばフェイスブックのデータベースが最新にされるというような、自動的なものかもしれません。電子メールを送信するというような、人間の行動とコンピュータの組み合わせ、紙にメモを書くというような、完全に人間によるものということもあり得ます。

しかし、すべてのこれらの記録に対して、メタデータは不可欠な構成要素です。

## 記録に対するメタデータについて

記録に対するメタデータは、起きたできごとの文脈を示す情報です。つまり、誰のフェイスブックの近況が最新にされたか？いつ？その人たちのコンピュータのIPアドレスは何か？紙の記録に対してすら、メタデータはあります。ただ、それはかつて、レターヘッド、ファイルの表紙、索引に手書きもしくは印刷されていたのです。

記録には多かれ少なかれメタデータを付けることができます。それらを生み出した、もしくはそれらが維持されているシステムの種類によります。

メタデータは一度限りのものではありません。それは、別々の業務上のやりとりに記録が関わることを通じて、時をかけて蓄積されていきます。それには、いつアーカイブズの領域に入ってきたかというデータも含まれます。この後、アーカイブズとしての“ボーン・デジタル”の記録群—データベース、ウェブサイトから電子メールの受信トレイまでを扱う私の仕事についてお話します。その仕事がうまくいくのには、メタデータを分析し、新しいメタデータを定義することが重要です。

メタデータは文脈を示すものとして不可欠です。このすばらしい例はたくさんあります。誰が送信者で誰が受信者かがわからない一連のメールを見ていると想像してください。もし

くは、あなたが課題を提出した記録を確認している先生が締め切り前に出されたことがわからないでいるとか。

アーカイブズでは、すべての記録、しかし特にデジタルのものについて、メタデータが記録の意味や利用可能性に関わってきわめて重要です。デジタル記録を扱う時、しばしば何千件、何百万件になります。私たちは固有の識別記号や作成者、システムの名前といった、意味をもたらすデータ・ポイントが必要です。日付は常に重要で、もし記録管理者の仕事をするなら、ある一つの記録を消去してよいかのようなことを確認するのに不可欠でしょう。

ですから、業務上の当然の一環として作成されたメタデータがあり、また、レコードキーピングの専門職として私たちは、記録や記録のまとまりに対して、その管理を支えるべく、独自のメタデータを加えます。アクセスの規則や、作成した組織や人物についての記述などです。

あまりにも明白に、レコードキーピングの専門職にとって、メタデータを扱うことは核となるスキルです。そして、私たちは、ライブラリアンのように、私たちが必要な、メタデータの標準を開発してきました。それらは、システムのデザインを通して、また業務上の規則によって、記録がさらに信頼でき有用なものとなるようにメタデータを実装することを助けてくれます。そうした標準は、アーカイブズの世界に広がっています。そこでは、アーカイブズの記述に関する標準のような、蓄積されていく記録に文脈情報を加え、それらを管理するのに際して私たちを助けてくれるメタデータのための規則を定めてきました。この話には、少し後にもう一度ふれます。

## アーキビストとその他のレコードキーピングの専門職の役割

私たち、アーキビストを含めたレコードキーピングの専門職は、いかに証拠、つまり記録の形になっている業務上の証拠をどのように作り保管するかについて多くの時間を使って考えています。その業務が政府を運営することだろうと、アーカイブズのサービス提供であろうと、ファッションを売るのであろうと。情報ガバナンスの専門職として働いていようと、アーキビストとして働いていようと、私は、記録を管理し、それらのアクセスを提供もしくは制限し、それらが長期にわたって真正なまま意味があり続け、利用可能な状態であるように、積極的に仕事をしています。

こうした目標に達するための、私たちの仕事の核には次のようなものが含まれます。

- ・ 組織の環境、業務活動、テクノロジー、リスクを継続的に繰り返し分析すること
- ・ 長期間にわたって、アーカイブズの記述という目的を含めて、記録に文脈情報を加えて管理することができるように、メタデータ付与の規則を決定すること
- ・ アクセスの規則を決めて導入し、アクセスを提供し記録を活用する（もしくは制限する）こと
- ・ 継続的な記録の保持、システム移行、削除を管理すること

どこで働くかによって、私たちはさらに次のようなことに従事します。

- ・ 複製・デジタル化のプログラム
- ・ 例えば、透明性を保障する法律の下での公共のアクセス、もしくはアーカイブズなどでのアクセスを管理すること
- ・ デジタル保存
- ・ 物理的な資料の保存

デジタルの世界で、すべての種類のレコードキーピングの専門職にとって最も重要なこと

の一つはまた、受身ではなくて、先を見通していることです。どのようにしたらいいでしょうか？アーキビストを含めたオーストラリアのレコードキーピングの専門職が、仕事において戦略的であるために用いているテクニックをいくつかお話しします。

## 業務分析

オーストラリアの政府の公文書館で働いているにせよ、サンフランシスコのグローバル企業で働いているにせよ、私がする必要のある最も重要なことの一つは、私の「権限」の範囲にある人びと、その業務、その記録とデータを理解することです。また、大きな視野から、私の努力をどこに注ぐ必要があるかを理解することも重要です。

例えば、政府のアーキビストとして、私の仕事は、レコードキーピングについて、オーストラリアのニューサウスウェールズ州全体に対して、影響力をもち、アドバイスを行うことでした。ですから、同僚と私が政府の機能と、それらがどこでいかに実行されるかを知ることが重要でした。この情報は、責任のある機関、人びと、システムについての詳細情報とともに、必要なときに私たちが介入し支援することを可能にしてくれました。それによって、業務、説明責任、記憶という目的に対して十分なレコードキーピングができるのです。この仕事については、ちょっと先でまたお話しします。

現在の、グローバルなファッション企業での私の仕事では、同じ理由から、業務の機能、活動、システムやデータを分析することに多くの時間を割いています。しかし、私が現在、主に力を入れているのは、これらのシステムや過程にプライバシー保護を入れ込むことで、それによって、会社がヨーロッパのGDPR [General Data Protection Regulation: 一般データ保護規則] のような規制や、カリフォルニアで導入されるプライバシーについての新しい法律にきちんと準拠できるようにするわけです。異なる背景がありますが、その方法は一緒です。今も業務、リスク、システムを分析し、記録を作成し収集し利用するための適切な戦略について決定しています。ただの「モノ」ではなくて、それはデータという形の記録です。

## メタデータのデザインと導入

メタデータについても少しお話ししたいと思います。なぜなら、すごく重要だからです！メタデータはレコードキーピングのエンジンを動かす燃料です。ライブラリアンもアーキビストもメタデータを使って働いていますが、前に述べたように、方法は異なります。

レコードキーピングの専門職は、アーキビストを含めて、長期間にわたって記録が信頼に足る利用可能なものであり続けるように、メタデータを用います。例えば、記録が次のようにあるべく、メタデータを使います。

- ・ 記録の生成について記述したメタデータを見ることができるがゆえに、その記録が主張しようとするものが証明され得る
- ・ その記録が支えている業務について他の記録と関連づけができる
- ・ しばしば何百万にもなる類似する記録をもつシステムから、当該記録を検索できる

私たちは、記録についての変化してゆく文脈を維持し、(法律その他の必要条件の範囲で)できる限り利用可能な状態にし続けるべく、メタデータを管理し追加します。私たちがメタデータを用いて仕事をするときの鍵となる標準には次のようなものがあります。

- ・ ISO 23081-1:2017「情報及びドキュメンテーション—記録マネジメントプロセス—記録用メタデータ—第1部：原理」

- ・ ISO 23081-2:2009「情報及びドキュメンテーション－記録用メタデータの管理－第2部：概念及び実施上の問題点」
- ・ (草稿段階)「文脈(またはコンテキスト)の中の記録(RiC)：アーカイブズ記述のための概念モデル」：国際アーカイブズ評議会(ICA)のアーカイブズの記述に関する専門家グループが作成中

アーカイブズには、私たちがコレクションについてもっている情報のための、いろいろなモデルがあります。最後の基準としてあげた RiC は特に、アーカイブズの記述についての方向性の国際的な転換を反映しているという点において、オーストラリア人にとっては興味深い展開です。

例えば、北米やカナダのアーカイブズの伝統は、“記録グループ(record group)”の概念に基づくアプローチを取っていました。記録グループは、政府機関もしくは家族のような、一つずつの区別できる存在から、アーカイブズとして保存されたあらゆる、すべての記録を記述する方法です。このモデルのもとで、その存在が消滅するまで、アーカイブズは記録グループに記録を追加し続けます。

アメリカ国立公文書記録管理院(NARA)はこのモデルにそって所蔵史料を並べています。ですから、NARAのウェブページに述べられているように、記録は「それを作成もしくは保持していた機関に帰するものであり、よって実際に使われていた時に整理されていたように並べられる」というような方法で記述されています。この説明は、長い時間をかけて作られてきた来歴もしくは「出所」の原則をまとめたものです。それによって、例えば主題に沿ってそれを分けようとするのではなく、同じ作成者の記録がいっしょに保管されます。「整理されていたように並べられる」という部分は、「もともとの並び順」という世界的なアーカイブズの原則を反映したもので、紙の世界では実行が容易でしたが、デジタルのシステムだとそんなにわかりやすくありません。もし時間があるようなら、今日の質疑応答のときにこの話に戻ってもよいです。

ですから、NARAの仕組みでは中心として重視されるのは記録作成者で、それはたいてい主な政府機関で、局か独立組織です。例えば、国立公文書館記録グループ29は政府国勢調査局の記録です。ほとんどの記録グループは、記録グループのタイトルに名前をあげられた組織について、その組織の以前のすべての組織の記録を含んでいます。

2、3の記録グループは、複数の小さな、存在していた期間の短かった、互いに行政上もしくは機能的に関係のある組織の記録がまとめられています。このタイプの記録グループの一例には、記録グループ76、すなわち国境の管理と紛争処理に関する委員会および仲裁の記録があります。

一方で、1970年代から、オーストラリアはアーカイブズの記述について別のアプローチを取ってきました。来歴の原則をいまだに尊重していますが、それをさらに改良したものです。その当時のオーストラリア連邦公文書館(現在のオーストラリア国立公文書館)において、アーキビストのピーター・スコットが、「シリーズ・システム」としてよく知られるようになったものを提案しました。

当時のオーストラリアの連邦政府の特徴の一つは政府の交代の頻度が大変増えているということでした。新しい政府が宣言されるたびに、新しい部局を作り、部局を統合し、名前を変え、目的を改めました。記録を作成する統治機構の安定性に頼ったアーカイブズの記述システムは簡単には機能しませんでした。要求されたのは、柔軟性があり、変化に耐えられるシステムでした。それを、スコットが発明したのです。

シリーズ・システムは、その最も基盤となる部分が三つの要素から成るモデルです。簡単なりレーショナル・データベースのようなものだと考えてください。

その三つの要素とは、業務（記録を生み出す機能、活動、過程）、その業務をする人びとと業務部門、そして記録そのものです。

1990年代の終わりには、オーストラリアのモナッシュ大学の調査プロジェクトが、シリーズ・システムの基本的な概念を使って、翌日の業務で作られようが、何年もアーカイブに収められていようが、記録の文脈に関係なくすべてのレコードキーピングに使えるメタデータ・モデルを取りあげました。これは「SPIRT」プロジェクトと呼ばれました。

それ以来、これがオーストラリアの、私たちが所蔵している記録についての情報を含んでいるアーカイブズ管理システムの基本的なデザインを提供してきました。

これらの図はモナッシュ大学の「SPIRT レコードキーピングのメタデータに関するプロジェクト：概念・関係性モデル」という1998年の出版物からです。記録に対するメタデータに対するオーストラリア的なアプローチの基礎的な構築要素を説明するのに、よくできています。

Figure 1 は、業務 [BUSINESS]、実行主体 [AGENT]、レコードキーピング [RECORDS] という三つの要素を示しています。

次に、レコードキーピングのシステムを図に入れこみます。Figure 2 で「業務に関するレコードキーピング [BUSINESS RECORDKEEPING]」と示しているところです。

そして次に、レコードキーピングを進め、統制する規則群、つまり義務（記録のための法律や必要事項） [MANDATES] を加えます。

そこで、シリーズ・システムを使うときの記述の作業は、次のような要素を文書化することについてとなります [Figure 3]。

- ・ 義務 [MANDATES]（レコードキーピングに影響を与える法律その他の必要事項）
- ・ 実行主体 [PEOPLE [AGENT]]（人びとと事業部門）
- ・ 業務 [BUSINESS]（機能、活動、過程）
- ・ 記録 [RECORDS]（システム全体からそれぞれの部門単位まで）

そして、実行主体 [AGENT] を見ればわかるように、ある時点において記録を生み出した部門の名前が記録されています。しかし、「記録グループ」のアプローチほどは、「シリーズ・システム」はその部門に拠ってはいません。実際、オーストラリアの実務家で理論家でもあるクリス・ハーレーは、スコットの方法は、記述する対象を、記録そのものよりも（さらにいっそう）、レコードキーピングシステムにしたと見ています。アーカイブズは、単なる蓄積“物”の置き場所ではなく、レコードキーピングシステムの登録所となりました。

シリーズ・システムのすばらしさは、変化を認める方法です。政府の部局は変化しても、長期にわたってその部局が行う機能は安定しています。システムは入れ替わりますが、業務に関わる記録の必要性は生き残ります。このモデルで、記録の文脈のすべてを、豊かな関係性を含めて、観察し記録することができます。階層的になっている、記録グループのモデルよりも維持がずっと簡単な方法になります。これはまた、現代のデータベースにもよく合い、必要な時に新しい要素を加えることができます。

一つの例として、一つの要素、「実行主体 (Agent)」だけ見てみましょう。政府のアーカイブはたぶん、最も高いレベルから実行主体を登録し記述するでしょう。つまり、政府全体から政府の取り組みファイル、例えば「環境と気候変動」へ。そしては「空気清浄局」のようなそれぞれの機関に落とし込まれます。そして、2010年に「空気清浄局」と「浄水局」

の二つに分かれた、「環境保護機関」などとして知られた「空気清浄局」の前にあった部局を、「続いている」または「先行している」という項目に登録します。

疑うべくもなく、将来にはさらなる変化があるでしょう。こうしたすべてのことが記録を作り出し、適切な部局に結びつけられる必要があります、それによって、今も将来もその意味をなすということになります。

その機能 [[業務]の要素にあたる] はたいてい、ある高いレベルで登録されています。つまり、例えば「環境マネジメント」には、「有毒廃棄物の監視」とか「水路管理」とかいう副次的な活動があります。これらは、嬉しいことに、「実行主体」や「記録」の要素よりはずっと安定しています。これらはすべて、アーキビストまたは研究者がつながりをつけて必要なものを見つけることが可能になるように、論理的にも私たちが利用するシステムにおいても関連づけられていなければなりません。

このアプローチがいかにか動くかについてのいい例が、私の昔の職場であるニューサウスウェールズの州立公文書館にあります。よろしければ、このリンク先の「詳細」検索オプションに行って、これらのすべての要素とそれらが互いにどのように関連づけられているかの例を、<https://www.records.nsw.gov.au/archives/advanced-search> で見てください。

同様に、このアプローチは、アーカイブズという環境下に限定されず、最新のビジネスの環境を含めてどんな状況のレコードキーピングでも使えるということを知っておくことが重要です。Gap できている仕事の大部分は、実行主体 [PEOPLE [AGENT]] (人びとと業務部門)、義務 [MANDATES] (プライバシーと記録保持に影響する法律)、記録 [RECORDS] (現代の業務の仕組みで作られ保管される、顧客の好みを記録する、オンラインの発送を辿るといような業務活動を記録したデータ群) を分析し記録しておくことに関わっています。

以上のスコットのモデルの説明が『文脈の中の記録』(RiC) の基準に関係しているというのはどういうことでしょうか？

まず、RiC はこのモデルの多くを採用してきています。RiC のための概念モデルの作成者たちは、それを複数レベルから多元的な記述への移行として説明してきました。新しい方法では、記録、実行主体、業務の要素は、必要に応じて複数のレベルで記述されます。彼らは、モデルを提示し、最終的にアーカイブズの記述を実際に行うために、グラフデータベースのテクノロジーを探究しています。

アーカイブズで記録を見つける人たちを私たちが助けている方法が、図書館で図書を見つける人たちを助ける方法とは違うことがわかってもらえたと思います。

アーカイブズでは、記録の主題について考える代わりに、記録の作成者と、その記録が生み出されたときにその人たちが何をしていたかについて考えます。

私とその他のオーストラリアの同僚たち、特にバーバラ・リードのような、ピーター・スコットの仕事を、私が今、言及した、レコードキーピングのためのメタデータの標準の形式としての国際標準の世界で発展させてきた人たちは、複数の記述アプローチがこのように協調的な方向に国際レベルで動いて来ていることを喜んでいます。もしも RiC について責任のある国際公文書館会議 (ICA) の専門家グループの仕事が広く採用されるなら、オンラインのメタ記述について、また国や領域をまたがるかたちで、わくわくするような展開の可能性もあります。

## 変化のための計画

私がお話したい私の仕事の最後の一面は、変化のために計画をすることです。業務分析およびメタデータの設計の両方が、私たちの実践のこの部分で極めて重要です。ピーター・スコットが「シリーズ・システム」を発明した時によくわかったのは、アーカイブズや記録の世界にいれば、他の人たちよりも、必然性の変化に敏感になるでしょう。今日、アーキビストを含むレコードキーピングの専門職が変化のための計画をしている最も重要な側面の一つが、システム移行の準備と管理です。

こうした理由から、私のキャリアの大半が、IT その他の連携者たちと働くことだったのです。システムが含んでいる記録が信頼でき利用可能でありつづけるように、そうしたシステムを管理し、またテクノロジーの変化に合わせてシステム移行を管理することについての計画をし、記録の蓄積という側面の必要条件を埋め込むように一緒に努力してきました。これは、メタデータ分析、形式の特定などのデジタル保存のツールやテクニックの知識を必要とします。私は、これがレコードキーピングやアーカイブズの仕事でもっとも楽しい部分の一つで、ヨーロッパのデジタル保存連合や、オーストラリアの「オーストララシア保存会」のような地域レベルでのグループのプロジェクトで、アーキビストとライブラリアンの協働が多くみられるところだと思います。

ニューサウスウェールズ州のアーカイブズで働いていた時、アーカイブズとして永久保存することが求められている政府の記録でボーン・デジタルのものを受け入れ、保存し、アクセス可能にするために、はじめての施設を作るチームを率いました。

その仕事において、私たちは、ピーター・スコットが想像していたような、レコードキーピングのシステムにおける登録所としてのアーカイブズ概念を取り入れました。不可欠なこととして、私たちはシステム移行のプロジェクトを構成するものとしてアーカイブズの移管過程を再概念化することによって、デジタル・アーカイブズの保存に向けてのこのアプローチの適用を検討しました。必然的に、これはデジタル記録を移管しようとする機関と一緒に正しい期待を作りあげるということでもありました。すべての組織は、業務やテクノロジーの変化にともなって、日常的にシステムを移行しています。私たちは、デジタル記録をレコードキーピングのシステムからデジタル・アーカイブズに移行する挑戦はシステム移行と全く同じだと主張してきました。もちろん、当該機関にデジタルの物体を移動するという仕事は単にサーバーもしくは外付ハードディスクドライブを送ることだけだと伝えることが可能ですし、それは彼らにとって一番容易な方法です。しかし、その場合、デジタル保存やシステム統合（その機関のレコードキーピングのシステムをデジタル・アーカイブズに知的に統合する方法）を実施するのに大雑把に一般的な解決法しか利用できません。システム移行の過程の枠組みを示すことは、その機関に対して、このプロジェクトに資源が必要で、計画と実行に関与する必要があるということを明確にします。また、これが移行のいいきっかけを作ります。つまり、デジタル・アーカイブズへの移行が、古いシステムを新しいものに移行させるための、より大きなプロジェクトの中にうまく位置づけられます。

私たちが行っていた、そのチームが現在も行っているシステム移行のプロジェクトにおいては、レコードキーピングのシステムにおける特定のニーズを評価するために州立公文書館と協働している機関が、カスタマイズした保存とアクセスの計画に合意し、資源投入と専門性のレベルに基づいてその計画の各要素を実行するのに最も適切な人は誰かを決めました。このモデルはその過程の中に保存計画の策定を埋め込んでいます。アーカイブズだけのために一つの機能としてそれを外に置いて、「マイクロソフト・オフィスの文書をすべて PDF に

変換」というような一般的な規則—これは不可欠でも適切でもなかったかもしれないことですが—を要求するというものではありません。これは次の三つの理由から有用だと言えます。特定の記録群の特徴が保存の決定において重みを考慮されるようになる；機関が必要なあらゆる形式の変換をちゃんと引き受ける（それによって、機関は変換後の記録に頼ることに自信をもち続けるでしょう）；柔軟性があり、どんな記録形式やカスタマイズされた業務上のシステムにも対応可能である。変換（保管者の正式な変更）はプロジェクトのただの一部分になり、その焦点とはならず、もはや不可欠な部分ですらありません。保管者の変更を含むシステム移行のプロジェクトの優先順位は高かったですが、そのアプローチは保管者の変更以外の移行でも使うにも適用することができます。これはつまり、もし機関がそのデジタル・アーカイブズのコントロールを維持したいと望むなら、その記録管理の権限をもつ機関がそれらの記録の保存やアクセス可能性のための計画策定に関与することができるということの意味します。

システム移行のアプローチは、レコードキーピングのシステムの全体を扱い、相互関係や複雑さを維持します。限られたメタデータしか認めていないただのファイルの集合としてそれらを扱うではありません。それは、デジタル上のレコードキーピングを行う政府機関を支え得る有用なサービスとして、デジタル・アーカイブズのプログラムを提案します。デジタル記録の移行は政府でも民間でもさらに頻繁に起きてきており、それは管理機構の変化や業務部門間やまた政府の管轄領域間の機能の変化や変更が引き金となっています。これらはデジタル記録の完全性やアクセス可能性を脅かす、リスクの高い活動です。デジタル・アーカイブズにとってのシステム移行のアプローチは、私たちが発展させてきたツールや実践や方法が、あらゆる類の移行業務を、蓄積されてきた記録が含まれていない時でさえも、支え得るということの意味します。

## まとめ

この講演で、アーカイブズやレコードキーピングの世界で働くことが意味することについて、あなたたちに何か見通しを示せていたらと思います。今はアメリカ合衆国にいる者ではありませんが、オーストラリア人の専門職として、それが少なくとも私にとって何を意味しているかということ。世界の異なる地域に異なる伝統があることは素晴らしいと思います。ですが、私は、デジタルの時代にさらに深く入って行くのにつれて、私たちの記録の遺産を未来に向けて確かに作り入手可能にするのに最もよい位置にいるだろう人たちとは、先を見通して戦略的なアプローチをとっているアーキビストやその他の記録管理に関わる人たちだと、私は固く信じています。

よろこんで、ご質問を受けたいと思います。また、日本のアーカイブズや図書館について反対に教えていただけるかもしれません。ありがとうございました。

(参考文献等は原文末尾を参照)